

センター通信

知床森林生態系保全センター

知床森林生態系保全センターとは、どのような業務を行っているのか・・・？分からない方も多いのではないのでしょうか。

そこで、今回は森林管理署と異なる当センターの特色と感じられることをご紹介します。

林野庁以外の方と関わる機会が多い

知床世界自然遺産は、様々な立場の多くの方が協力することで管理されています。

行政では、林野庁、環境省、北海道、斜里町、羅臼町が世界遺産地域管理者として関わっています。

この他に、行政からの委託等により、実際に遺産地域内の施設や野生動物植物を管理している一般財団法人、公益財団法人、観光協会等の方々。

7月号で触れた各種会議において、科学的なアドバイスをくださる学識経験者の皆さま、地元ガイド、地域住

民の方々など、知床の自然に関わる方はとても幅広いです。



地域ボランティアの方と共に斜里町においてゴミ拾い

私たちセンター職員は、会議への出席や地元住民向け説明会等を通して、こうした多くの方と関わりながら仕事をしています。

会議以外にも、ヒグマの出没情報を日頃から共有したり、登山道の整備を協力して行ったりしており、赴任してすぐは名刺交換の多さに驚きました。

来所者が多い

これは、前段の内容と重複しますが、多くの方がセンターを訪れます。

今年度はこれまでに、企業等が研修の一環とし

て来られた際に当センターの紹介をしたり、国内外の学生等の実習を受け入れたり、研究者の方々を知床の森林へご案内したりしました。



企業の方々への研修

また、庁舎は知床国設野営場内にあることから、様々な国の方が訪ねて来たり、外国語で話し掛けられます。

知床八景の一つである「夕陽台」も近く、観光客から遊歩道沿いに見られる植物の名前を尋ねられることもあるので、日々勉強しています。

保全や調査が主要な業務

植え付けや間伐といった直接林業に関わる業務は行っておらず、主に

う事業は、河川工作物の改良、エゾシカの捕獲による個体数調整、シマフクロウ等希少動植物の調査、などです。

また、GIS（グリーンサポートスタッフ）と共に山岳地帯を含む歩道の整備を行ったり、ミズナラ堅果結実調査（その年のどんぐりの豊作・凶作を調べる）を始めとして職員自ら調査を行ったりしています。



8.11 山の日啓蒙登山

今後もしこうした特色から、国内外を問わず多くの方と積極的に関わり、共に知床の自然を守り伝えながら、林野庁出先機関としての当センターの価値を高め、より良い形で未来へとつなげていきたいと思えます。